

参院選の公示があさって22日に迫った。こんどから選挙権の年齢が18歳に引き下げられる。新たに240万人の有権者が誕生する。全体の2%程度だが、彼らの投票行動に関心が集まっている。

若者といえば昨年夏の国会でモテすっかり有名になった学生グループの「SEALDs(シールズ)」。昭和のころの若者の反乱を思い起こさせた。

当時、若いときは革新支持で、就職し所帯をもって社会的な地位につくと保守的になり自民党支持になるケースがけっこう多かった。ところが最近はどうも違う。むしろ若者ほど保守志向が目立っている。

それは日本経済新聞社とテレビ東京の世論調査から、はっきりとみてとれる。まず安倍晋三内閣の支持率。2016年に入ってからだけでも、全体の平均より20代の方が高い。

- ▼1月 47% (55%)
  - ▼2月 47% (66%)
  - ▼3月 46% (69%)
  - ▼4月 53% (56%)
  - ▼5月 56% (56%)
- 全体(20代)
- ▼1月 36% (33%)
  - ▼2月 33% (56%)
  - ▼3月 36% (42%)
  - ▼4月 44% (52%)
  - ▼5月 44% (45%)
- 参院選でこの政党に投票するかをみて20代で自民党をあげる向きが多い。

# 若者は自民党がお好き?

論説主幹

芹川 洋一

## 核心

ド。読売新聞社の出口調査でも年代別では20代、30代の約6割が自民候補を支持した(4月25日付朝刊)。

若者ほど自民支持に傾いているのをどうみたらいいのだろうか。与野党幹部や政治学者の話から5つの理由に集約できる。

それだけではない。4月24日投票の衆院北海道5区の補選でも同じような傾向だった。共同通信社が実施した出口調査によると、年代別では50代、70歳以上で野党候補が優勢だが、20代、40代で自民候補がリ

政権を担当した3年3カ月で失望を招き、民主はとくに若い人に嫌われてしまった。支持政党の行き場がなくなり、結果として自民の支持率を押し上げている(民主幹事長経験者)。

ナシヨナリズムが高まり、保守化したことが自民支持につながった(松原仁・元民主党国会対策委員長)。

その3 多数派志向回説意識して自民支持というよりは、その時々多数に合わせ、それを自分も支持しているのが無難と感じる当世の若者気質が背景にある(松本正生・埼玉大教授)。

若者の側からみるとどうなるのだろうか。若者のライフスタイルや消費行動を研究している、博報堂のブランドデザイン若者研究所のリーダーである原田曜平氏(39)の解説を聞いた。

その4 現実的思考説 デフレのもとで育った今の若者はイデオロギーや思想ではなく生活がどうなるかを考え、現実的な思考をする(公明党首脳)。

その5 ナシヨナリズム その5 ナシヨナリズム誘因説 中国、韓国、台湾との間で国境意識が芽生え

その1 首相効果果説 小泉純一郎首相のあと個性的ナリーターが若者に好まれるようになった。安倍首相もはつきりした物の言い方で、期待感をうみ首相支持が自民支持につながっている(自民幹部)。

た昭和的価値へのあこがれがあり、昭和を案じてきた

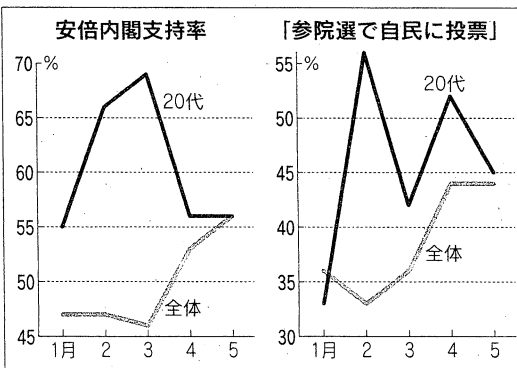
## 「弱い支持」どこまで続く

自民党に合致しやすい。ただ政治意識は低く、決して強い支持ではない」と分析する。

保守化した今の若者を原田氏は「マイルドヤンキー」と呼ぶ。地元に残って親にパラサイト(寄生)しケータイで地元の友だちとつながっている若者たちだ。

ちよっと前、原田氏は政府・自民党の広報対策の責任者から呼ばれた。

「マイルドヤンキーのよきな、地方創生の担い手となりこれから自民党を支えてくれる若者たちが増えていくのは大変喜ばしい」



「いや、地元密着型で保守的な価値観は持っているままですが、旧来の政治的な保守ではありません。あくまでもケータイで同級生や親とつながっている存在です」広報の責任者はがっかりした表情だったという。